

<マルクス関連年表>

- 1818年5月5日 カール・ハインリヒ・マルクスはドイツ・プロイセン王国の現在のフランス国境に近いモーゼル川河畔の町トリーアに、父のユダヤ人弁護士ハインリヒ・マルクスと母のオランダ出身のユダヤ教徒ヘンリエッテ（旧姓プレスボルク）の第3子（次男）として誕生。
- 1835年10月 マルクス、ボン大学に入学。
- 1836年夏 マルクス、貴族の娘で幼馴染のイエニー・フォン・ヴェストファーレンと婚約。
- 1836年10月 ボン大学からベルリン大学に転校。
ベルリン大学では、法学を中心に講義を受けるが、ヘーゲル哲学、ヘーゲル左派の影響を強く受ける。
- 1840年 イェーナ大学に『デモクリトスとエピクロスとの自然哲学の差異』と題した論文を提出し、同大学から哲学博士号を授与される。
- 1842年 ライン地方の『ライン新聞』に参加し、ジャーナリストとして活動し、後に編集長となる。
- 1843年6月 25歳のマルクスは29歳の婚約者イエニーと結婚。
- 1843年10月 新妻とともにパリへ移住。
- 1845年2月 マルクス一家はパリを離れ、ベルギー王都ブリュッセルに移住。
- 1847年 マルクスがロンドンで「共産主義者同盟」結成。
- 1848年 『共産党宣言』刊行（エンゲルスとの共著）
- 1848年 フランスで・ルイ・フィリップ王政を妥当する「2月革命」が勃発、ドイツ「3月革命」など、ヨーロッパ各地に革命運動が波及する。
- 1848～1849年 マルクスら、革命運動のため、フランス、ドイツを行き来する。
(マルクス自身も何度か逮捕される。)
- 1848年4月 マルクス一家はプロイセン領ライン地方ケルンに移住し、6月に日刊紙『新ライン新聞－民主主義の機関紙』の発行を始める。
- 1849年8月 マルクス一家、イギリスに入国。
- 1850年9月頃から大英博物館で経済学などの勉強しながら執筆活動に専念する。
- 1859年 『経済学批判』完成。
- 1864年9月 第一インターナショナル（国際労働者協会）結成。
マルクスは執行部に委員に選出される。
- 1866年11月 『資本論』第1巻刊行。
- 1870年夏 普仏戦争勃発。

- 1871年 フランスの敗戦とパリ・コミューンの決起、政府軍による鎮圧・弾圧。
マルクスはパリ・コミューンを高く評価し擁護する。パリ・コミューンを扱った『フランスにおける内乱』を執筆・刊行。
- 1875年 ラサール派とアイゼナハ派(マルクス派)が合同して「ドイツ社会主義労働者党」(後の「ドイツ社会民主党」)が結成される。
マルクスはこの党の「ゴータ綱領」案を批判する書簡を記すも、公表はされず、マルクス死後、その書簡は1891年になって、エンゲルスにより『ゴータ綱領批判』として公表された。
- 1883年 3月14日 ロンドンの自宅で病死。享年 64 歳。
- 1885年 マルクス死後、マルクスの遺稿を整理・編集したエンゲルスにより『資本論』第2巻が出版される。
- 1894年 マルクスの遺稿を整理・編集したエンゲルスにより『資本論』第3巻が出版される。
- 1895年 マルクスの盟友フリードリヒ・エンゲルス死去 (Friedrich Engels, 1820年 11月 28日 - 1895年 8月 5日)